

healthycolumn
健康コラム
保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

飯南病院 便り
大腸癌のお話



診療部長
竹田 和希

飯南病院の竹田です。今回は大腸癌についてお話しします。

日本人の死因として、ここ数年、悪性新生物(癌)が第1位となっています。その部位別癌死亡数のうち、大腸癌は男性3位、女性1位(2020年データ)となっています。

多くの方が大腸癌で亡くなっている状況ですが、大腸癌はもっと減らすことができると考えています。定期的な検査による早期発見・早期治療です。

大腸ポリープのほとんどが、初めは腺腫(良性腫瘍)で、時間経過とともに大きくなり、腺癌(悪性腫瘍)、いわゆる大腸癌に変化していくことが分かっています。腺腫のほとんどが、大腸カメラの時に電気メスを使って切除すること(内視鏡治療)が可能です。

癌になった場合、初期の大腸癌は内視鏡治療が可能です

が、大きくかつ深く浸潤していくと、外科的治療や抗がん剤治療が必要になってきます。当院では外科的治療は行っていませんので、近隣の大きな病院に紹介している状況です。

大腸癌を早期発見・早期治療をするためには、大腸癌検診がとても重要です。大腸癌検診として、便潜血検査が行われています。排出された便の中に、血液の反応があるかどうかを調べる検査です。2日間の検査を提出し、どちらかの一方が陽性、もしくは2回とも陽性になった人には大腸カメラをすすめています。

大腸癌は早期発見されれば根治可能な疾患です。

- ①大腸癌検診を受けましょう。大腸癌検診を受けた事がない方・受けてみたい方は当院にご相談ください
 - ②大腸カメラを受けてみませんか。自分はポリープが得意かどうかわかりませんか
 - ③大腸ポリープが得意か、数年ごとに定期的な大腸カメラをおすすめします
 - ④しばらく大腸カメラを受けていない方も、久しぶりに検査を受けてみませんか
- 飯南病院でお待ちしています!

保健福祉センター 便り
オレンジカフェに気軽に参加してみませんか

高齢者の約4人に1人が認知症、または予備軍であり、高齢化が進み認知症の人はさらに増加するとされています。本町は「認知症になっても住み慣れた地域で、お互いに支え合い、安心して暮らせるまちづくり」を目指して活動しています。

●オレンジカフェとは

認知症について気軽に学び、生活での困りごと・病気のことなど、不安なことや気がかりなことを同じ悩みを持つ者同士がお話をする場所です。年齢や性別を問わず、どなたでも気軽に参加できます。

例えば・・・こんなことありませんか。

- 耳が聞こえにくくなって出かけることが億劫になった
- 検診の案内が届いたけれど、よく分からない
- 一人暮らしで、一日誰とも話をしない日がある
- 最近字を書くこともなくなって・・・

皆さんで語り合い、笑い、「今日は楽しかった」と思えるひと時を過ごしていただきたいと思います。

●開催場所と日時

- ・都加賀(つがか工房又は交流センター都加賀) 月1回(最終木曜日)
- ・頓原(交流センターとんぼら) 月1回(第2水曜日)
- ・赤名(福島邸) 月1回(第3火曜日)

各会場10時~12時

●参加費 100円

■問合せ

地域包括支援センター ☎72-1770 岩崎・田中

こんにちは
中山間地域研究
センターです。

苗木を空から運ぶ

●中山間地域研究センター ☎76-2025
<https://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>



稲の栽培に欠かせない農薬散布の作業。重い動力噴霧器を背負って歩きながらの作業をよく見かけますが、夏の来島の水田で一風変わった飛行物体での散布作業を見かけました。

そう「ドローン」です。

テレビ番組などでよく見る上空からの写真・動画撮影に始まり、今では大型のドローンを使った荷物運搬なども実証試験が行われ、目覚ましい進歩を遂げています。

当センターでも、ドローンのような新しい技術を活用して「林業現場作業の効率化・省力化を図れないか」をテーマに試験研究を行っています。

現在、林業の現場で検証しているものに、ドローンによる苗木の運搬があります。当センターで行った試験では、ドローンを使用することで、従来の人力運搬に比べ、効率的に苗木を現場に運ぶことがわかりました。

このような新たな技術の検証・分析・評価を行い、技術の現場導入につなげることで、林業現場作業に寄与していきます。



苗木を詰めた袋を運ぶドローン

■問合せ 森林保護育成科 ☎76-3822

まちを元気に! 地域おこし協力隊

町内のさまざまな地域課題の解決に取り組む「地域おこし協力隊」の活動を紹介します。今回は、飯南町学習支援館を担当する瀧尻恵二さんの活動報告です。



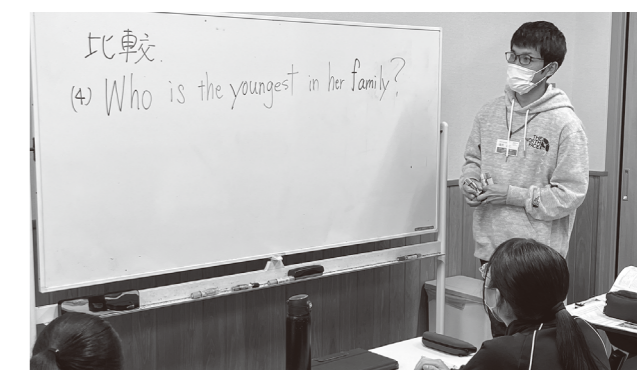
飯南町学習支援館に勤務する瀧尻恵二です。ここでの仕事も2年目となりました。1年目と変わらず、生徒たちに会えるのが大変楽しいです。生徒たちは、主に放課後の時間を使い、ここ学習支援館で勉強をしています。元気な笑顔はもちろん、テストで悔しがらる表情、問題ができるようになった納得の表情など、生徒たちが私たちの原動力です。

今は、より長く飯南町の生徒たちに、この学習支援館を利用してほしいと考えています。努力は再現が可能です。学生時代に「頑張った」という経験は、社会人になっても財産として生徒たちの中に生き続けます。勉強をとおして、納得がいらず、投げ出したい経験もするかもしれませんが、失敗は必ず成長に繋がります。失敗は、した方がよいのではなく、成長に失敗は「不可欠」です。

「勉強をとおして、打たれ強く、しなやかな心を育みた

い」そのような想いを胸にこれからも生徒を見守り、サポートし続けたいです。また3年目に向けて、生徒たちと共に成長していきます。これからもよろしくお願いいたします。

※2-3ページに関連記事



昨年度から中学生に英語の授業を行っています